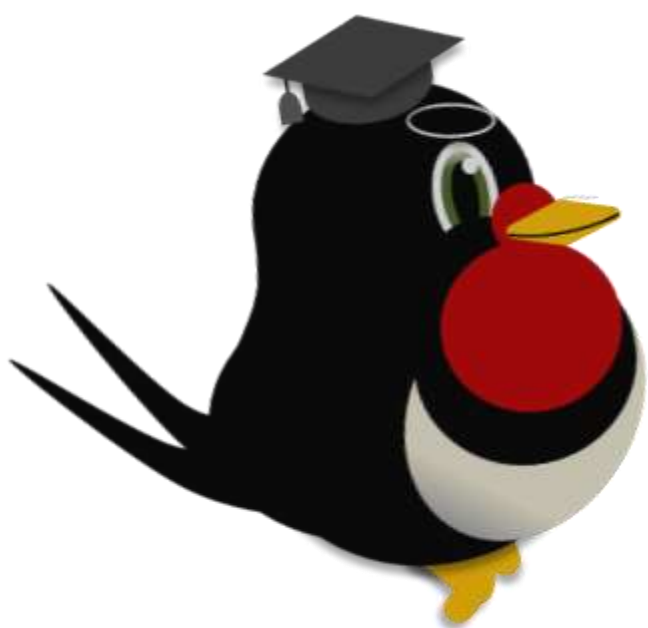


令和3年度
羽ばたけつばくろ
応援事業



活 動 報 告 書

燕市教育委員会

～小学生から20歳までのみなさんの『夢』を募集します～ 羽ばたけつばくろ応援事業

燕市では、若者の主体的な活動を応援する、「羽ばたけつばくろ応援事業」を実施しています。

対象は、「燕市に住所を有する高校生から20歳までの個人」または「燕市に住所を有する小学生から20歳までの者が代表となる団体・グループ」とし、将来を担う人材の育成を目指します。

若者が将来なりたい自分を設計し、実現するための自己啓発、体験活動、学習、研究、視察などの活動や、地域で取り組むイベント、地域活動など社会参画事業の企画を募集し、個人は10万円、団体は25万円を限度にして補助を行います。

若者たちの「達成したい目標」、「叶えたい夢」、「住んでいるまちをもっとよくしたい」の実現に向け一歩踏み出すきっかけづくりを応援していきます！

なお、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、例年2月に実施している発表形式の成果報告会の開催が中止となったため、燕市ホームページ上で各団体の発表動画や活動の中で制作した成果物などを公開しています。

本報告書と併せ、燕市ホームページ上での成果報告をご覧いただき、燕市を活性化させる素晴らしい活動について知る機会としていただければと思います。

燕の宝 スキル（技術）＆ハート（心）
 ～燕の明日へ フューチャー・ラボ～



【団体名】燕東小学校 躍進学年
 【代表者名】坂爪 美月

<p>活動の目標</p>	<p>5年生の時に総合的な学習の時間で見学・体験した「燕のものづくりの歴史・技術・精神」や東京オリンピック選手村での洋食器の活用など、世界に誇る燕市の魅力を他の地域に対しPRすることで「ふるさと燕市」への「愛着」と「誇り」を一層深め、燕市の将来を担っていく自主性と想像力を育てる。</p> <p>また、まちづくりの学習を通じて思い描いた「未来の燕」を作っていく方法を「フューチャー・ラボ」としてまとめ、市に提言することで、燕の将来を担うのは自分自身だという意識を育てる。</p>
<p>活動の内容</p>	<p>①互いのまちづくりやまちの魅力をj知るために、修学旅行で、十日町市立川治小学校の6年生や大地の芸術祭の企画に携わる方々と交流する。</p> <p>②燕市が抱える問題点を学ぶ。</p> <p>③世界レベルの技術を誇る燕市のものづくりのすばらしさを広くPRするために、動画制作を行う。</p> <p>④燕市の金属加工業をPRするため、金型廃材を利用して未来の燕市を表現したブランキング・アート（洋食器を作るときに出た抜型を使ったアート作品。抜型は、普通は一部リサイクルされたり、廃棄されたりする。）を制作する。</p> <p>⑤地域の人材やまちづくりに携わる方々をゲストティーチャーとして招き、燕市の現在の問題を解決するとともに、自分自身も輝ける燕市を創っていく方法を「躍進宣言」として表現し、市に提言する。</p>

<p>活動の成果</p>	<p>十日町市立川治小学校と交流することで、同じ6年生としてまちの発展に貢献しようとする意欲が向上した。十日町市で行われている大地の芸術祭からインスピレーションを受け、ブランキング・アートを制作することになった。作成したブランキング・アートは、材料を寄付してくださった地域の方や保護者の方に好評であった。活動の一環でPR動画を制作し、それを地域の方や下学年に紹介し、広くPRすることができた。</p> <p>活動を通して得た考えを市に提言する「躍進宣言発表会」は感染症禍のため延期になったが、宣言を考えることで、自主的に未来を拓き、そのためにどんな努力をしていくかという意識が生まれた。</p>
<p>これからの目標</p>	<p>これまでの活動を通して、燕市の良さを知ることができた。これまでの活動の集大成として、作成したブランキング・アートを多くの人目に触れる場所に飾ってもらい、金型工業の品質の良さや技術の確かさ、これからの可能性などについて、広く知っていただきたい。</p>

たすけ愛 食でつなく未来



【団体名】燕市立島上小学校6年生

【代表者名】春木 陽菜

<p>活動の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●食べるものに困っている人の力になる ●フードロスの削減、エコバッグ利用の推進を呼びかける活動を行い、地域全体に地球環境を守るための行動を広げる。 ●地域をより良くしていこうとする活動を通して、ふるさとへの愛と誇りを育む。
<p>活動の内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①全校や地域の方、スーパーなどに協力を呼びかけ、学校に食料品を寄贈してもらう。 <ul style="list-style-type: none"> ・協力を呼びかけるためのチラシやポスターの作成 ②協力してくれた方へ返礼品として、エコバッグやウェットティッシュをプレゼントする。 <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルエコバッグ（300個）、ウェットティッシュ（900個）の作成 ③集まった食料品をフードバンクにいがたへ寄付し、食べるものに困っている人に届けてもらう
<p>活動の成果</p>	<p>活動は2回実施し、第1回目の活動では193kgの食料品が集まった。2回目の活動を実施する前に、1回目にもうまくいった点や改善すべき点を話し合い、協力店舗を増やすなどした。その結果、第2回目の活動では、1回目を上回る210kgの食料品を集めることができた。</p> <p>食べるものに困っている人に食料品を届ける手助けをすることができたことで、思いやりの心、支え合うことの大切さに気付くことができた。</p> <p>また、今回の活動では、たくさんのお店から協力していただき、地域の方々から多くの食料品の寄付をいただいた。そういった地域の方々のあたたかさに触れることで、自分たちも積極的に地域に関わっていこうという気持ちが生まれた。</p>
<p>これからの目標</p>	<p>今後の生活の中で、「ものや食べ物を大切にする姿を下の学年に見せること」や「地域の方々に明るい挨拶をすること」を心掛け、この活動で学んだことを意識していきたい。</p>

糸半(いとはん)プロジェクト
～感染禍の中で 今、私たちができること～



【団体名】小池中学校生徒会

【代表者名】高桑 悠太

活動の目標	<p>平成 27 年度より先輩方がスタートさせた糸半プロジェクトの名称に込められた思いを引き継ぎ、今年度のテーマ「地域交流」と「地域発信」に沿った活動を行う。</p> <p>活動を通して、糸半プロジェクトを小池中学校生徒会が地域の皆さんと一緒に活動の名称として、地域との「絆」の象徴として広く知ってもらえるようにする。</p>
活動の内容	<p>今年度は、昨年度に引き続き感染禍の中での活動となった。これまでの地域貢献活動に加えて、地域交流と地域発信の2点の視点から活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none">・地域の魅力発見のための糸半朝会の実施・地元企業と、ものづくりのコラボ企画を計画・昨年度作成した防災マップをホームページに掲載・災害場面を想定した「さすけなぶる」や「防災クロスロード」の活動・災害時に必要とされる能力を身に付けるための、学年別の学習・糸半講演会（ステイホーム期間の増加により懸念されることについて）の実施・認知症サポーター養成講座の実施 <p>また、活動の様子を糸半新聞と冊子にまとめて、地域に情報発信を行った。</p>

<p>活動の成果</p>	<p>災害場面を想定した「さすけなぶる」の活動では、「目の前のことだけを考えずに、その先まで考えて行動しなければならない」といったことや「想像力を働かせ、大きな声だけでなく小さな声も聞く必要がある。みんなが納得する考えを導くのはとても大変だ」などの感想があった。全校生徒で行った「防災クロスロード」の活動では、「他の学年や班の違う意見を聞けて、納得したり、新しい意見や考えを深めることができてよかった」などの感想があった。災害時に中学生として何ができるのか、何をすべきかを意見交換しながら考えを深めることができた。</p> <p>また、地元の企業とコラボレーションした取組も新たにスタートさせることができた。</p> <p>今年も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で地域での活動は限られたが、クリーン作戦や地域防災訓練への参加、地域の方々への鉢植えやクリスマスリースのプレゼントなど、できる範囲で地域での活動を実施することができた。</p>
<p>これからの目標</p>	<p>これまでの「防災」に加えて、新たに「福祉」という視点でも取り組み、誰にとっても安心して暮らせるまちづくりに貢献していく。</p> <p>現在進行中の地元企業とのコラボレーション企画を継続していく。</p>

「国上山の植物」の作成



【団体名】 燕中等教育学校
サイエンス部

【代表者名】 長谷川 陽

<p>活動の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●国上山の主要な植物を紹介するパンフレットを作成し、小学校に配布することで学習に役立ててもらおう。 ●私たちの住む燕市について、より理解を深める。
<p>活動の内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①国上山でフィールドワークを行い、季節の植物を探す ②フィールドワークで撮影した植物の写真やメモをもとに、インターネットや辞書、図鑑を使って調べる ③パンフレットに掲載するための植物の写真を撮影する ④部員で意見を出し合いながらパンフレットの原稿を作成する
<p>活動の成果</p>	<p>新型コロナウイルスの影響で思うように活動を行えず、大変なこともあったが、部員同士で協力し合い今回のプロジェクトを素晴らしいものにできたと思う。</p> <p>作成したパンフレットを小学校や分水ビジターサービスセンターに配布し、役立てていただきたい。</p> <p>活動を通して、国上山への知識、興味を深めることができた。また、植物についての知識を得たことで、日ごろの授業にも役立てることができた。</p>
<p>これからの目標</p>	<p>今後は、国上山フィールドワークを継続し、国上山に関する知識をさらに深めたい。また、フィールドワークで学んだことを活かし、燕市の小中学校への出前授業を実施したいと考えている。</p>

●審査員の皆様からのコメント（抜粋）

【燕東小学校 躍進学年】

- ・燕東小学校 躍進学年の皆さんの想いが込められた“ブランキング・アート作品”とても素敵でした。アートに込めた想いを忘れず大人になって、皆さんの力でぜひ、実現してほしいと思います。
- ・リサイクルにより環境を守りながら産業が発展すれば、素晴らしいと思います。これからも燕市が抱える問題を学び、未来の燕市のことを考えてください。
- ・燕市の金属加工業の金型廃材を活用し、ブランキング・アートで「未来の燕市」を象徴するモニュメントを作成したことは、自分達の提言を目に見える形で印象的に伝えることにつながったと思います。

【燕市立島上小学校6年生】

- ・とてもいい取組だと思います。食べ物が無駄に捨てられないようになれば、地球への負荷が少なくて済みます。環境問題をこれからも考え続けてください。
- ・1回目の活動を振り返り改善点を考え、2回目に向けて38箇所もの地域の店舗等に自分達の手でポスターの設置を依頼したことで、皆さんの実行力、発信力が高まったことを感じました。
- ・活動を通して約400キロもの食料を困っている人に届けることができたこと、素晴らしいです。また、活動を通して皆さんが「行動を変えることができた」ことは大きな成果だと思います。環境や地域のことを考えた行動、今後もぜひ続けてください。

【小池中学校生徒会】

- ・前年度の取組を今年度の活動に生かし、さらに感染禍の中で中学生としてできることを考え、地域の方々と共に取り組んでいる点が素晴らしいと思います。「燕の魅力を発信できるようなベンチ」がとても楽しみです。
- ・コロナ禍だからこそ、中学生として何ができるかを考えた行動、素晴らしいです。現在進行中の地元企業とのコラボレーション企画が、どのようなものになるか楽しみです。
- ・糸半プロジェクトで地域の皆さんと協力している姿が、とてもよかったです。これからは福祉という視点でも取り組むそうですが、地域貢献をこれからも続けられることを期待しています。

【燕中等教育学校サイエンス部】

- ・「国上山の植物」のパンフレット、色鮮やかで魅力的です。四季折々にたくさんの美しい植物があること、驚きました。写真撮影、植物の紹介やコラムの記述などの細かな作業の積み重ね、大変だったと思います。今後もぜひ活動を続けるとともに、地域の子どもたちにも紹介してください。
- ・きれいな花の写真がよかったです。国上山の植物は80種類もあり、春夏秋冬ごとに見頃を示してあり、ハイキングに行く楽しみができました。国上山にはまだまだいろいろな植物が生育しているんでしょうね。
- ・フィールドワークで撮影した国上の植物の美しい画像を基に、花の色別にレイアウトし「可食」「不食」という情報も入れたことで、誰もが手に取りたくなるようなリーフレットが完成しました。国上寺や良寛さまのコラムも興味深いです。

●鈴木 力燕市長による労いの言葉

羽ばたけつばくろ応援事業に応募して下さった皆さん、大変お疲れさまでした。活動を終えてみていかがでしたか。

この羽ばたけつばくろ応援事業は、若者が主体的に取り組む活動を応援し、夢の実現や地域活動などを支援し、燕市の将来を担う人材を育成することを目的に事業化しました。

今年度は、企画採用された4団体の皆さんから2月に成果報告をしていただく予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となってしまい、大変残念に思っています。しかし、その代わりに、皆さんから発表動画や壁新聞を提出していただき、燕市ホームページ上で公開することで、市内外の多くの方々に皆さんの素晴らしい活動を伝えることができるのではないかと考えています。

皆さんが取り組まれた内容は多種多様で、皆さんが考えていることや思い描いている夢、地域との関わりなどのお話を聞いて、活動を通し、自分の内面から成長することのできた貴重な機会だったのではないかと感じました。

この事業は、あくまでもきっかけづくりをお手伝いする事業です。皆さんは今回の活動を通して、新しい出会いや仲間との共同作業、地域との繋がりなど、普段経験することがないことを感じる事ができたかと思います。そういった経験を、これからの将来設計を組み立てる際に役立てていただくとともに、皆さんのより一層の努力により夢が実現することを期待しています。

また、今回の活動で身に付いた知識や技術を活かし、これからの燕市の将来像についても様々なアイデアを出していただき、地域の活性化や人口の増加に結び付けてもらいたいと思います。

今回の取り組みが、皆さんの将来の夢や目標の実現に向けて羽ばたくきっかけとなることを期待しています。

令和4年3月

燕市長 鈴木 力